

平成26年度第2回奈良市環境基本計画推進会議 会議録	
開催日時	平成26年8月27日（水）午前10時00分から12時00分まで
開催場所	奈良市役所 中央棟6階 第一研修室
議 題	1 平成26年度（平成25年度実績）評価の取りまとめ（案）について 2 今後の予定について
出席者	委 員 小松原座長、遊津副座長、井上委員、岡野委員、清水委員、青木委員 【計6人出席】
	事務局 環境部 大西参事 環境政策課 油谷課長、弘補佐、杉本係長、吉留主務補、中井主事
開催形態	公開（傍聴希望なし）
担 当 課	環境部環境政策課
<b>議事の内容</b>	
○案件 1. 平成26年度（平成25年度実績）評価の取りまとめ（案）について 第1回会議に引き続き、「奈良市環境基本計画（改訂版）」掲載の各施策に関する平成25年度実績に対して、各委員から評価いただいた結果の取りまとめ（案）について報告。 今回は、シートNO. 18～31について、各課の自己評価シート及び各委員から提出された意見の内容と、その集約案について内容説明を行った。その後、集約案について審議を行った。	
<b>〔質疑・意見の要旨〕</b>	
<p>前回会議での審議事項に関して</p> <p>シートNO. 11について、予算額が増加した理由は、なら工藝館の人員増によること、シートNO. 16について、前回会議の審議を踏まえ、目標値を変更したことを報告。</p> <p>18. ごみ搬入量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表記について、体言止めではなく、「～である。」等の表記に変更。</li> <li>・啓発活動の充実に関する施策で、草木類の処理、レジ袋削減についてはどうなっているのか？ →レジ袋有料化については、昨年度からスーパーでの実施に向けての事業者訪問、事業者会議を開催している。草木類の処理については、剪定チップへの利用があるが、予算面での問題もあり、処理量は横ばいである。</li> <li>・啓発と同時に、経済面での減量システムの変更が必要（ごみ袋有料化等） →ごみ袋有料化については、答申が出ているが、現状では、収集業務の民間委託等、環境部の組織体制改善に取り組んでいる状況である。</li> <li>・啓発について、環境問題に関する意識の高くない層に対する誘導、働きかけが必要。 ⇒<u>取りまとめ案について承認</u></li> </ul> <p>19. 産業廃棄物の最終処分率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の独自要綱とあるが、法規制からの上乗せはどうなっているのか</li> <li>・対象事業者数はどの程度か →担当課へ確認する。</li> </ul>	

・単年目標が設定できないとあるが、設定できるものを目標とした方が評価しやすいのではないか。

⇒取りまとめ案について承認

## 20. 不適正処理件数のパトロール総箇所数に対する割合

・のべ1320箇所のパトロールとあるが、問題のないところを除くなど、効率的に取り組むのはどうか。

→対象箇所は状況により変化する面もある。実態として、全てを監視するのは難しい状況であり、通報で把握することもある。事案が発生した際は警察と連携して対応している。

⇒取りまとめ案について承認

## 21. 不法投棄警告センサー設置箇所数

・これまでも議論されている内容であるが、達成率について、単年度目標があるものは単年度で評価したい。単年で見ると達成率評価が高くなる指標もある。事業というものは、単年目標の達成を積み上げることにより、最終目標が達成できるので、基本は単年目標がベース、という考えである。

・指標により、単年度目標が設定しにくいものもあるが、そこは柔軟に考えればよいのではないか。

・評価の仕組みの話になるので、下半期の推進会議で議論していきたい。

⇒取りまとめについて承認

## 22. アダプトプログラム活動団体数

・自治会活動などを見ても、携わる人々に高齢化傾向があると思われるので、今後の目標達成が懸念される。

⇒取りまとめについて承認

## 24. 下水処理施設の耐震化率

→費用面の問題で、事業が進められていない状況である。

・耐震化も重要であるが、近年のゲリラ豪雨等による処理施設のキャパシティ面はどうか。

→雨水が施設に流れる合流式下水道は旧市街地のみで、基本は分流式下水道となっている。雨水は河川に流れるようになっている。

→目標達成に向けての計画策定、あるいは目標値そのものの見直しも必要になる可能性がある。

⇒取りまとめについて承認

## 25. 耐震性貯水槽の設置数

→課題の中に、年次計画通りに実施できないとあり、目標達成に向けた現状の確認、あるいは状況に合わせた目標値の見直し等の検討を、担当課に働きかけていく。

⇒取りまとめについて承認

## 26. 自主防災防犯組織結成率

・現状においても、単年度で見ると結成率98%となり、達成度は高いものとなる。結成率を上げることも重要だが、維持していくことも重要である。

⇒取りまとめについて承認

## 27. 市民1人当たりの都市公園面積

- ・公園の利用率低下とはどういうことか。実際に把握しているのか。

→少子高齢化の状況を踏まえた表現である。

- ・高齢者の利用に向けた再整備も必要。

⇒取りまとめについて承認

## 28. グリーンサポート制度による公園管理率

- ・報奨金は物品なのか。

→物品貸し出しもあるが、金銭でも渡している。

・制度を活用せず、自発的に取り組んでいる地域もある。貢献度に対してきちんと評価し、持続可能な制度にしていけないといけない。

⇒取りまとめについて承認

## 29. パークアンドライド駐車台数

・単年度目標値は設定してほしい。また、様々な手法とあるが、手法の中身とその結果についての報告が欲しい。

→県と合同で会議を立ち上げ、渋滞対策、公共交通機関の利用促進に向けた方策を検討している。

⇒取りまとめについて承認

## 30. パークアンドサイクルライドの利用者数

- ・最終目標を達成しており、さらなる目標の上方修正をしてほしい。

→パークアンドライドの利用も含めて、奈良県庁前の登大路駐車場の閉鎖による市役所駐車場の利用増が要因である。県市が連携し、市役所駐車場の案内、パークアンドサイクルライドの利用や、ぐるっとバスの利用を推進している。

⇒取りまとめについて承認

## 31. 幼稚園・小学校での環境出前講座開催数

- ・教育委員会との連携のもと、カリキュラム内への導入に向けて取り組んでほしい。

→環境教育推進会議の中で議論を進めている。地域での環境教育の担い手の養成を目指している。

⇒取りまとめについて承認

以上、事務局での加筆修正を経て、内容について確定となった。今後、環境審議会での承認を得て、各施策の実施課へ評価結果を報告する。

## 2. 今後の予定について

井上委員より、今後の会議運営についての提案があった。

・PDCA サイクル進捗管理が本会議の目的であり、昨年度会議での提案を基に、前年度評価を予算編成時期までに確定できたのは評価できる。しかしながら、結果の評価も重要であるが、では次にどうするのか、という点を考えていきたい。これまでの会議では、過去の実績評価に終始していた

が、今後は、推進という面について重きを置いた運営をしていきたい。

- ・まずは評価方法の標準化。当該部門の決定権のある者との意見交換をした方がよいと考える。また、評価の視点や、目標値についても議論していく方がよい。単年度目標を設定し、目標達成に向けた施策、あるいは中長期的な方針を明記し、それに対する結果を評価したい。

- ・基本計画には記載されていない重要課題（クリーンセンター移転等）について検討項目に入れるべきと考える。

→事務局としても、年度前半は実績評価、後半は施策展開に関する意見・提案をいただきたいと考えている。まずは評価方法についての見直しから、提案の反映に向けて進めていきたい。

下半期の予定について

- ・次回会議日程について、年内の開催と考えているが、詳細については事務局から連絡する。指標1，2についての結果がまとめ次第となる。

→数値結果は報告ということにし、施策の中身としては報告・議論を進めていけばよいと思う。目標を、すぐに評価ができるものにする、という考え方もある。

→評価結果をアクションに繋げることが重要。

**⇒次年度は、これら2つの指標について前半の会議の中で示せるもの（実施施策等）を出し、それを基にして評価をいただく形をとる**

- ・評価方法の変更は必須と考える。また、会議委員として、各課が実施している施策の中身について、もっとよく理解したい思いがある。

- ・各施策課に参加してもらうことは可能なのか。施策について詳しく知らないまま、失礼な評価をしているおそれがある。

→自己評価シートや、推進会議からの報告等のやりとりが基本的なものとなる。

次回会議の日程については、後日事務局より連絡することとし、閉会。